

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人物を育成する。

自立支援コースを設置する総合学科の高校として、「多様性」をキーワードに、

- 1 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
- 2 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
- 3 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
- 4 学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1)「わかる授業」により生徒が自己肯定感を向上し、主体的に学ぶ姿勢の一層の向上をはかり、進路実現へとつなぐ取組を進める。

- ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒を主体とした「学習力」の視点での授業を通し、「自己実現力、協働力、深く考える力」を育む。
- イ 総合学科の特性を活かした授業展開の中で、ICT 機器をツールとして活用する授業をより一層推進し、生徒の自主的な学習へつなげる。
- ウ 「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」を土台として、3年間を見据えた探究学習を充実する。
- エ 観点別評価を活用した指導と評価の一体化をめざし、「指導に生かす評価」の見える化をはかり、生徒の学習意欲の向上につなげる。
- オ 学習力向上チームを中心に、教科の枠を超えた授業公開や研究協議をよりいっそう活性化し、授業改善につなげる。

【R7年度までの到達目標】 ※「自己診断」とは 学校教育自己診断 を示す。

- | | |
|---|----------------------------------|
| ○ 自己診断（生徒）における「わかりやすい授業」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:65.7% → R3:69.9% → R4:61.2%] |
| ○ 自己診断（生徒）における「工夫をしている先生多い」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:78.4% → R3:79.1% → R4:76.0%] |
| ○ 自己診断（生徒）における「考えをまとめたり発表する機会多い」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:79.8% → R3:78.3% → R4:74.9%] |

2 人権教育、キャリア教育の推進

(1)3年間を通して人権教育を系統的に推進する。さらにその延長上にキャリア教育・進路保障があるという観点で、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働して生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

- ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR 等を活用して、3年間を見通した人権教育・キャリア教育を積極的に行う。
- イ 生徒自らが「どのように生きるのか」を考え、「生き方の指針」を作ることができるよう、様々な出会いを通じた人権教育・キャリア教育を推進する。
- ウ 科目選択（パック選択）を、将来を見据えたキャリア教育の絶好の機会ととらえ、全校あげて実施する。
- エ 普段の授業においても、人権教育・キャリア教育を意識した授業展開を心がけ、普段からの人権意識の向上に努める。
- オ 自立支援コース生の進路実現に向け、校内サポート体制を充実させるとともに、関係諸機関と連携し、就労に向けた取組を多面的継続的に行う。

(2)自分を大切に、他人を尊重する立場から、自ら率先して基本的生活習慣を確立する態度を育て、自分や他人の進路保障につなげていく。

- ア 生徒自らが率先して、挨拶、礼儀、身だしなみ等を高めるような意識を持ち、それが進路保障につながるという意識を醸成する。
- イ 生徒自らが率先して、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立する意識を育む。

【R7年度までの到達目標】

- | | |
|---|----------------------------------|
| ○ 自己診断（生徒）における「進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:80.8% → R3:80.8% → R4:74.9%] |
| ○ 進路実現率 100%をめざす。 | [R2:98.2% → R3:98.8% → R4:98.7%] |
| ○ 自己診断（生徒）における「先生の指導には納得できる」の肯定率 75%以上をめざす。 | [R2:62.9% → R3:68.1% → R4:66.2%] |
| ○ 年間遅刻総数 4000 件以下（めやすとして各クラスで1週間の遅刻6件以下）をめざす。 | [R2: 4252 → R3: 4432 → R4: 6569] |

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1)「学びの多様性」を通して、1年次で「聴く力・話す力」、2年次で「調べる力・考える力」、3年次で「決める力・行動する力」を身につけ、生徒が自律的自発的に活動し、自らの才能が開花できる環境を整える。

- ア 学校行事や特別活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験し、自己肯定感の向上につなげる。
- イ 生徒が「個性の多様性」を理解し、お互いがともに学び、ともに育つことによって、将来において共生・協働できる姿勢を育む。
- ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。
- エ 生徒情報を教職員間で共有するとともに、教育相談係や支援委員会で集約し、SC 等の専門職とも連携しチーム学校として生徒を支えていく体制を継続する。

(2)他校種や地域との連携を深めるとともに、学校情報の積極的な発信を行い、地域や保護者からより一層信頼される学校をめざす。

- ア 近隣の幼小中学校や福祉施設等との連携をすすめる。
- イ 学校 Web ページや SNS 等を活用し、生徒会の生徒とも連携して情報発信を積極的に行う。

【R7年度までの到達目標】

- | | |
|--|----------------------------------|
| ○ 自己診断（生徒）における「行事はみんなが楽しく行われるように工夫されている」の肯定率 85%以上を継続。 | [R2:88.8% → R3:88.7% → R4:88.7%] |
| ○ 自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:71.0% → R3:75.7% → R4:74.5%] |
| ○ 自己診断（保護者）における「子どもが貝塚に入学してよかった」の肯定率 90%以上を継続。 | [R4新設 95.4%] |

4 健全な教職員集団と学校組織の育成

(1)教員の「働き方改革」を推進するため、「チーム学校」の意識を高めるとともに、長時間勤務の縮減に努め、効率の良い時間の使い方を研究する。

- ア 校務運営については、ICT をツールとして活用し効率化を進める。
- イ 会議については、運営方法を見直し、有効活用を研究する。
- ウ 学校行事等については、スケジュール感を意識して活動計画を立てる。

(2)教職員が専門職として常に情報をアップデートする姿勢を持ち続けるとともに、「風通しの良い職場」として心身ともに働きやすい環境の維持に努める。

- ア 研修の精選を行い、専門職として必要な研修を充実させ、教職員集団全体の質の向上を図る。
- イ 「チーム学校」として取組む意識を持ち、生徒情報の共有に努めるとともに、教職員どうしが助け合える環境づくりに努める。
- ウ 非常時の連絡体制を確立し、迅速かつ的確に対応できる校内体制を整える。

【R7年度までの到達目標】

- | | |
|---|----------------------------------|
| ○ 自己診断（教職員）における「学校は働き方改革に取り組んでいる」の肯定率 75%以上をめざす。 | [R4新設 55.9%] |
| ○ 自己診断（教職員）における「校内研修は教育実践に役立つ内容」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:81.6% → R3:61.1% → R4:71.2%] |
| ○ 自己診断（教職員）における「気軽に相談し合える職場の人間関係がある」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:84.2% → R3:72.2% → R4:69.5%] |
| ○ 自己診断（教職員）における「組織的に対応できる体制が整っている」の肯定率 80%以上をめざす。 | [R2:81.6% → R3:66.7% → R4:77.2%] |



【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	<p>(1)「わかる授業」</p> <p>ア 学習力向上の前提となる教員の授業力を底上げし、生徒主体の「学習力」視点での授業展開を工夫する。</p> <p>イ 評価と指導の一体化をめざし、指導に生かす評価の見える化をはかり、生徒の学習意欲の向上につなぐ。</p>	<p>(1)わかる授業により生徒は安定する</p> <p>ア① 学習力向上チームを中心に、卒業までに生徒が身につけるべきチカラについて、教職員での共有化を図るとともに、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、「生徒にとってわかりやすい授業」「生徒が主体的に参加できる授業」の構築に努める。</p> <p>②「互いに高めあう教員集団」育成をめざし、授業見学期間を設け、教科の枠を超えた授業見学を行い、取組の共有化をはかるとともに、いつでも気軽に授業見学ができる雰囲気醸成する。</p> <p>イ 観点別評価の導入に合わせ、指導方法を研究し、「生徒がやる気の出る評価」に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア①自己診断（生徒）の「わかりやすい授業が多い」を70%に [61.2%]</p> <p>「授業に工夫をしている先生が多い」を78%に [76.0%]</p> <p>「考えをまとめたり発表する機会多い」を78%に [74.9%]</p> <p>②自己診断（教員）の「他教科と話し合う機会がある」を75%に [67.2%]</p> <p>イ 観点別評価について、各教科の取組を全体でも共有できるよう、教員で学習会を開く。</p>	
2 人権教育 キャリア教育の推進	<p>(1)人権教育・キャリア教育の推進</p> <p>ア 「産業社会と人間（産社）」「総合的な探究の時間（総探）」を、本校の大きなミッションの一つとしてより充実させる。</p> <p>イ 様々な出会いを大切にしながら、タイムリーな人権教育を行う。</p> <p>ウ パック選択を、将来を見据えたキャリア教育の絶好の機会ととらえ、全校あげて実施する。</p> <p>エ 自立支援コース生の進路実現に向け、校内サポートを充実するとともに、関係諸機関と連携し、就労に向けた取組を多面的継続的に行う。</p> <p>(2)基本的生活習慣</p> <p>ア 生徒が率先して、挨拶、礼儀、身だしなみ等を高める態度を持ち、それが進路保障につながるという意識を醸成する。</p> <p>イ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立する意識を育む。</p>	<p>(1)自尊感情の高まりにより生徒は安定する</p> <p>ア 「産社」「総探」をより充実させるため、担任と副担任がTTで授業を行い、生徒が主体的により深く考えられる環境をつくる。</p> <p>課題研究的内容については、生徒に達成目標を明確に示したうえで、相互発表活動を充実し、貝塚高校教育フェスタで発表するなど、プレゼン能力の向上をめざす。</p> <p>イ 人権教育推進部を中心に、外部人材も活用しながら、生徒の実情と社会状況に応じたタイムリーな人権教育を実施し、豊かな人権感覚を育てる。</p> <p>ウ 進路とパックのつながりをより重視した教育課程に再編したので、キャリア教育とパック選択指導が生徒の中でリンクするよう、自分の将来をデザインしたうえでパック選択ができるパック選択オリエンテーションを全校あげて実施する。</p> <p>エ 自立支援コース生の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携を強化する。特に就労に向けた職場体験・職場実習を積極的に行う。</p> <p>(2)日々の見守りと助言により生徒は安定する</p> <p>ア① 生活指導は進路指導であるということを繰り返し伝えながら、生徒自らが社会で通用する身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、メリハリのある指導を粘り強く行う。</p> <p>② 生徒会執行部とも連携し、生徒主体のキャンペーンを行う。</p> <p>イ 基本的生活習慣の確立のため、まず遅刻件数を減らすよう取り組む。保護者との連携も丁寧に行う。遅刻の多い生徒には、どうすれば減らすことができるかを一緒に考えながら、粘り強く指導を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 自己診断（生徒）の、「進路や生き方について考える機会がある」を80%に [74.9%]</p> <p>イ 「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」を80%堅持 [80.4%]</p> <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を80%に [79.3%]</p> <p>ウ 「進路情報をよく知らせてくれる」を85%に [82.7%]</p> <p>パック選択オリエンテーション後のアンケートでの満足度85%以上 [新規事業] 卒業生の希望進路実現率100% [98.7%]</p> <p>エ 自立支援コース生の希望進路の実現100% [100%]</p> <p>(2)</p> <p>ア① 自己診断（生徒）の「先生の指導に納得できる」を70%に [66.2%]</p> <p>② 生徒会執行部主体のキャンペーンを、年間3回行う。</p> <p>イ 遅刻件数を4400件以下に（めやすとして各クラス月28以下） [6569件]</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 「自主・自律・創造力と協調・協働力の育成</p>	<p>(1)生徒の自律的自発的な活動 ア 学校行事や特別活動を通して達成感等を経験し、自己肯定感の向上につなげる。 イ お互いがともに学び、ともに育つことによって、将来において共生・協働できる姿勢を育む。 ウ 生徒情報のこまめな共有とともに、チーム学校として生徒を支えていく体制を継続する。</p> <p>(2)地域連携と発信 ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 生徒会の生徒とも連携した学校の情報発信を積極的に行う。</p>	<p>(1)自尊感情の高まりにより生徒は安定する ア 行事をできる限り生徒主体で進めることで、連帯感・成就感・達成感を経験し、多くの感動を体験することで、自己肯定感を高める。 イ 授業においては、探究活動や発表活動を積極的に行う。体育祭・文化祭等の行事においては、工夫を凝らし、協働する姿勢や他者を思いやる心を育み、コミュニケーション力を高め、仲間づくりを進める。 ウ 課題を抱えた生徒に迅速かつ組織的に対応するために、生起した事案は年次団会議、教育相談委員会、支援委員会等で集約したうえで、職員会議等で全教職員に共有し、「チーム学校」としてSCやSSW等の専門職とも連携しながら対応する体制を継続する。</p> <p>(2) ア 地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、部活動で中学生を招いての合同練習や本校主催の貝高カップ戦などを実施し、学校の取組みを外部の人に発信し、本校への理解を深めてもらう。 また、近隣の幼小中学校や施設と、生徒・教職員の交流を積極的にすすめ、本校への信頼を深めてもらう。 イ① Web ページやブログ、SNS を活用し、「生徒の活動の見える化」に取り組む。本校の特徴ある教育活動の魅力を広く発信する。 ② 広報活動に、生徒会を中心とした生徒がより積極的に関わるように進める。</p>	<p>(1) ア 行事満足度を 95%堅持 [96.0%] イ 自己診断（生徒）の「行事はみんなが楽しくできるよう工夫」を 85%堅持 [88.7%] ウ 自己診断（生徒）の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」を 77%以上 [74.5%] 「担任以外で保健室等で相談できる先生がいる」を 60%以上 [53.7%] 自己診断（教職員）の「教育相談体制が整備され生徒は担任以外とも相談できる」を 80%以上 [78.9%]</p> <p>(2) ア 自己診断（生徒）の、「地域の人々や近隣の学校との交流機会がある」を 60%以上 [49.5%] 部活動で小中との交流を 5 部以上で実施 [3部] 保護者の学校満足度を 90%堅持 [95.4%] イ① 校長ブログは月 3 回以上更新する。 Web ページはタイムリーな更新を実施する。SNS 等を活用し生徒会主体の情報発信も行う。 ② すべての学校説明会で生徒の成果物を活用するとともに、生徒会を中心に生徒にも運営に協力してもらう。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 健全な教職員集団と学校組織の育成</p>	<p>(1)働き方改革 ア ICT をツールとして活用し校務運営の効率化を進める。 イ 会議の運営方法を見直し、有効活用を研究する。 ウ 学校行事等は、スケジュール感を意識して活動計画を立てる。</p> <p>(2)教職員のスキルアップと「チーム学校」 ア 研修の精選を行い、専門職として必要な研修を充実させ、教職員集団全体の質の向上を図る。 イ 「チーム学校」の意識を持ち、生徒情報の共有に努めるとともに、教職員どうしが助け合える環境づくりに努める。 ウ 非常時の連絡体制を確立し、迅速かつ的確に対応できる校内体制を整える。</p>	<p>(1)学習環境改善により生徒は安定する ア ICT を活用して校務運営の効率化を進め、単純な事務作業に係る時間短縮を図るとともに効果的な校内連絡体制を構築し、教員が生徒と向き合える時間・教材研究をする時間を捻出する。 イ 会議日程の見える化をさらに進めるとともに、開始・終了時刻を明確にし、効率の良い運営方法を研究する。 ウ 学校行事等日程から逆算したスケジュールに合わせて活動計画を立てるとともに、生徒の最終下校時刻を設ける。</p> <p>(2) ア 専門職として必要な研修を充実させながら、研修の精選を進め、教職員がともに学べるような「学習会」スタイルの研修を設け、より主体的に「研修」に参加できるよう工夫するとともに、個々の取組を全体に共有することで教職員集団全体としての質の向上を図る。 イ 業務を個人で抱え込まず、「チーム学校」として取り組む意識を持つとともに、非常時には迅速かつ確に対応できる校内体制を整える。 ウ グループウェアの活用により平時の連絡体制を構築し、すべての教職員が使いこなせるように努める。これにより、非常時にも慌てず的確に活用できることをめざす。</p>	<p>(1) ア グループウェア等を活用した教職員連絡体制を構築する。 イ スケジュールと会議日程の共有を、ICT を活用して行う。 ウ 自己診断（教職員）の「学校は働き方改革に取り組んでいる」を 65%以上 [55.9%]</p> <p>(2) ア 自己診断（教職員）の「校内研修は教育実践に役立つ内容」を 75%以上 [71.2%] イ 自己診断（教職員）の「気軽に相談し合える職場の人間関係がある」を 75%以上 [69.5%] ウ 自己診断（教職員）の「組織的に対応できる体制が整っている」を 80%以上 [77.2%]</p>	